

PRAEVIDENTIA DAILY (3月11日)

昨日までの世界：ドル/円がまたしても出遅れ、ドルと円が全面高

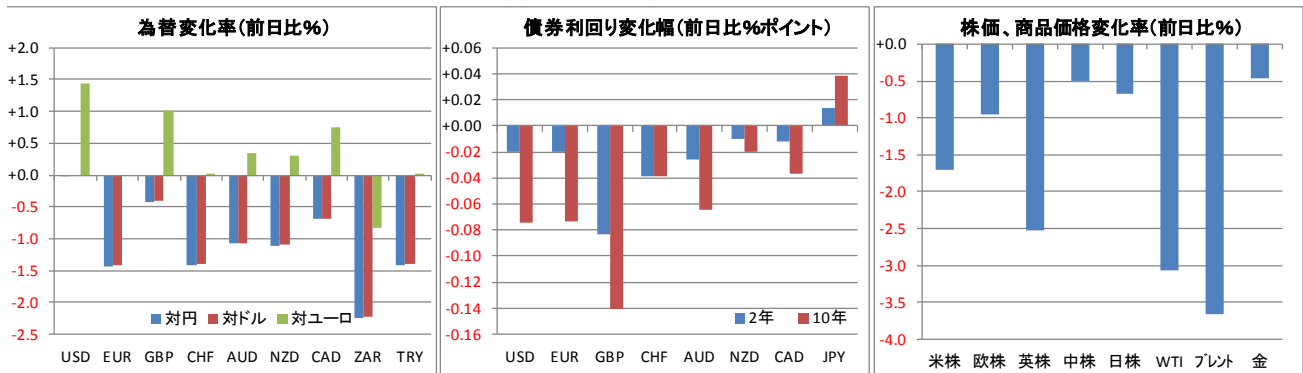
昨日は材料が少ない中、ドルが対円を除いてほぼ全面的に上昇した。FOMCによる利上げ開始が意識されている可能性はあるものの、米中長期債利回りは低下しており、特段ドル買い材料もなく、むしろ Furman 米 CEA (大統領経済諮問委員会) 委員長がドル高は米経済に対する向かい風だと述べるなどドル安材料の方が目立ったような状況だった。

ユーロ/ドルはドル高の中で下落が継続し、一時 1.0691 ドル、本日早朝には 1.0667 ドルへ下落、12年振りの安値となった。ECB 量的緩和開始を受けた欧州利回り低下に加えてギリシャ問題が重石となっている可能性があり、昨日は Varoufakis ギリシャ財務相が「ギリシャは世界で最も破綻した国だ、ギリシャが債務返済を怠ることを欧州首脳は 2010 年 5 月の段階で認識していた」と述べたことが材料視された可能性がある。この間、欧州国債利回りは全般的に低下し、イタリア、スペイン、アイルランド 10 年債は過去最低を更新した模様だが、ギリシャ国債利回りは逆行して上昇した。

豪ドル/米ドルは、米ドル高基調の中、NAB 企業信頼感がゼロと市場予想を下回ったことも豪ドル安材料となり、一時 0.7602 ドルと 6 年振り安値となった。なお、中国 2 月 CPI は前年比+1.4%と、市場予想 (+0.9%) を大きく上回ったものの、生鮮食品価格の一次的急上昇が主因だった模様で、特に中国の金融政策には影響がなさそうだ。

ドル/円は、ドル高相場に出遅れていた中、東京時間はドル高の展開となり一時 122.02 円と昨年 12 月の高値を更新した。もっとも、その後欧米時間にかけては急反落し、121 円割れとなった。Furman・米 CEA 委員長のドル高懸念発言や、NY 時間入り後の米株安と米中長期債利回りの低下が下押し材料となったようだが、他のドルクロスドル高と比べるとドル/円の出遅れ感が再び鮮明となった。アベノミクス推進派だったが最近では日銀追加緩和に慎重姿勢を示していた本田内閣官房参与は「120 円程度なら問題ない」「行き過ぎかどうか分からない」「安倍首相も注意深く見ていくと話している」などと述べ、特段円安牽制はしなかったが、逆に更なる円安を望む発言でもなく、政府・日銀の追加緩和・円安進行への慎重姿勢を裏付けるものとして、円を売りにくくする一因だったかもしれない。

主要通貨、債券利回り、株価の前営業日比変化



きょうの高慢な偏見：ギリシャ火薬

きょうの注目通貨：NZD↓、EUR↓

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
本邦2月企業物価指数・前年比	8:50	+0.3%	+0.5%	
本邦1月機械受注・前年比	8:50	+11.4%	-1.0%	
豪1月住宅ローン・前月比	9:30	+2.7%	-2.0%	
中国2月固定資産投資・年初来	14:30	+15.7%	+15.0%	
中国2月鉱工業生産・前年比	14:30	+7.9%	+7.8%	
中国2月小売売上高・前年比	14:30	+11.9%	+11.7%	
英1月鉱工業生産・前月比	18:30	-0.2%	+0.2%	
Draghi・ECB 総裁発言				ECB 国債買入効果を議論
ギリシャとトロイカが実務協議入り				
NZ・RBNZ 金融政策決定	5:00	3.50%	3.50%	利下げ予想はナシ

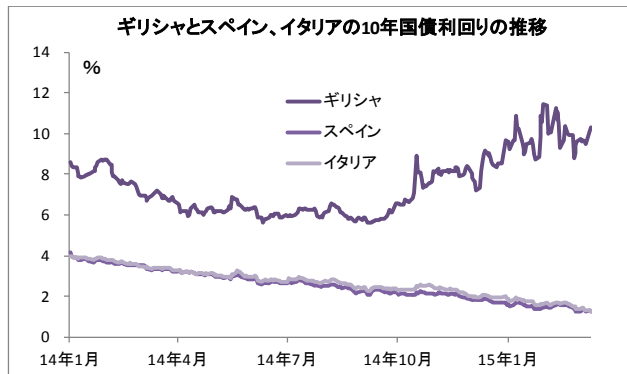
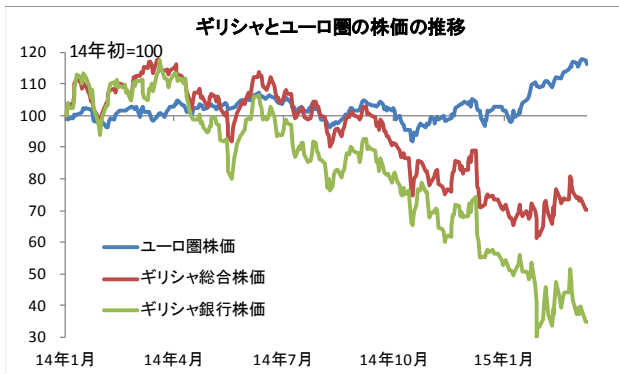
(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

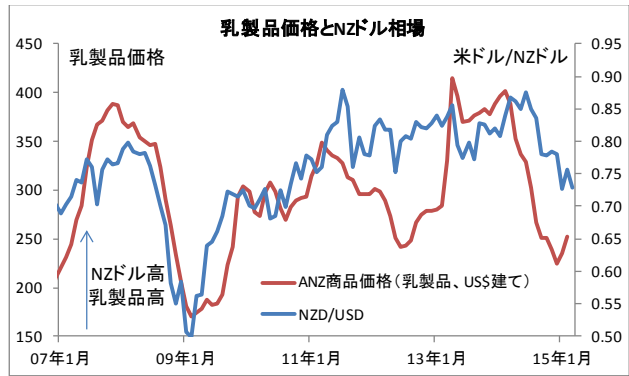
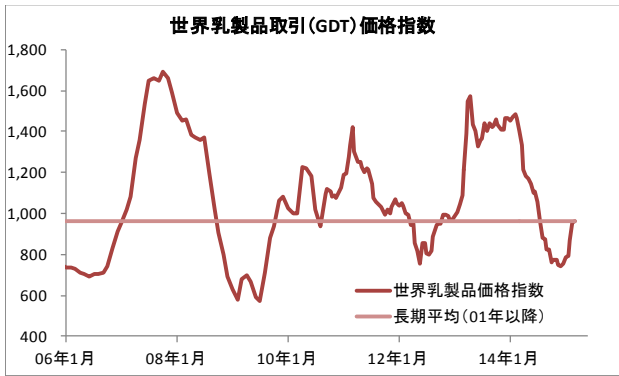
ドル/円は引き続き日米材料が少ない中で、米中長期債利回りや米株価動向を睨んだ展開が続くそうだが、昨年12月に続き122円丁度近辺で反落したことから、同水準の上値の重さが意識されてくるリスクがある。米株安につれて本邦株価が下落すると、驚きではないがドル/円の重石となるかもしれない。

ユーロ圏では、ECBの資産購入開始に加えて、今週はギリシャを巡って幾つかのイベントが予定されていることから、ギリシャ懸念も再びユーロの下押し材料となりそうだが、本日からギリシャ政府とトロイカとの間でギリシャが先般提出した財政改革内容を精査する実務協議が開始され、明日12日にはECBが株価が下がり続けているギリシャの銀行(下図を参照)への緊急流動性支援(ELA)の延長を巡って協議、そして13日にはギリシャ政府のIMFに対する債務返済(3月中は15億ユーロ)のうちの二回目の返済期日が到来する(その後は16日と20日に予定)。最近のVaroufakisギリシャ財務相の債権者に対する反抗的発言などもあって、ギリシャの財政改革姿勢を市場が再び疑い始めるリスクが高まっているようだ。

ニュージーランドではRBNZ金融政策決定が注目される。RBNZは前回会合で引締めバイアスから中立に変更したが、今回は利下げが予想されていない。但し、市場では利下げを織り込んでNZドルショートを仕込んでいる向きもある可能性があることから、据え置きであればNZドルは上昇し易いだろう。最近の世界乳製品取引(GDT)オークション価格の上昇傾向や、対米ドルでのNZドル下落傾向も、利下げの喫緊性を示していない(下図を参照)。

もっとも、コモディティ価格が長期的にみて低水準で、総合CPI(直近は前年比)がインフレ目標下限を下回っており、かつNZドルは依然として長期的にみて高水準であることには変わりがなく、NZドルを更に安くして景気とインフレを下支えしたいRBNZとしては、他国中銀の相次ぐ利下げの動きが一服している中で「後出しじゃんけん」的に利下げを行うリスクも残っている。この場合、十分には利下げは織り込まれていないことから、NZドルは下落しよう。





#### ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。

当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社  
 金融商品取引業者(投資助言・代理業)関東財務局長(金商)第2733号  
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641